

<別記 6>

令和5年度 再評価対象事業一覧表

令和5年7月作成

| 整理番号 | 事業計画 | | | | | | 再評価の理由※2 | 再評価の視点 | | | | | | | | | | 前回審議年度 | 対応方針(原案) | | | |
|------|----------|-----------|------|------|-------------------------------|---------|----------|---------|--------------|---------|--------|-------|---------|---|--|--|-----------|--------|--|--|-----|------------|
| | 事業名 | 施設名 | 事業主体 | 事業箇所 | 事業概要 | 工期 | | 事業費(億円) | 事業進捗の状況及び見込み | | | | | 上位計画への位置づけ、関連事業の状況 | 社会経済情勢の変化 | 地元等の意向 | 費用対効果分析 | | | コスト削減及び代替案立案の可能性の有無 | | |
| | | | | | | 着工 | | | 完了 | 前年度迄事業費 | 進捗率 | 用地進捗率 | R5年度事業費 | | | | R6年度以降事業費 | | | | B/C | 分析基礎の要因の変化 |
| | | | | | | 下段:変更※1 | | | 上段:当初※1 | (億円) | (%) | (%)※3 | (億円) | | | | (億円) | | | | | |
| 都市2 | 街路事業 | 竹松駅前原口線 | 大村市 | 大村市 | 延長 L=577m 幅員 W=6.0(16.0)m | H23 | R5 | 14.25 | 10.7 | 56.9 | 63(76) | 1.1 | 7.0 | ・大村市総合計画の「道路網の整備と公共交通の利便性の向上」に位置付けられている。 ・大村市都市計画マスタープランの「交流を促進する交通ネットワークの整備」、「人にやさしい交通環境の整備」に位置付けられている。 | ・当地域は近年、宅地化が急速に進行しており、人口が増加し、将来交通量も増加している。 | ・富の原小学校区の保護者や地元住民から早期整備の要望を受けている。 | 1.1 | 1.1 | 【プラス要因】 ・対象地域の将来交通量の増加 【マイナス要因】 ・事業費の増(移転補償費の増、舗装構成の見直し、埋蔵文化財発掘調査) ・事業期間の延長(用地解決の遅延) 【その他要因】 ・マニュアル改定によりの走行経費減少便益が増加 | ・今後実施する工事において、現場発生品の再利用等により、可能な限りコスト削減に努めている。 ・用地買収が76%完了しており、代替案の可能性は無い。 | R2 | 継続 |
| | | | | | | H23 | R10 | | | | | | | | | | 18.8 | | | | | |
| 道維2 | 道路改築事業 | 虹が丘町西町1号線 | 長崎市 | 長崎市 | 延長 L=1,950m 幅員 W=10.0m | H18 | R7 | 40 | 28.7 | 44.2 | 95(95) | 2.1 | 34.2 | ・長崎市第五次総合計画において、「広域幹線道路網の整備による良好な道路ネットワークの形成」に位置付けられている。 ・新型コロナウイルスの蔓延に伴い、資材価格の高騰や、用地交渉の進捗に影響が出ている。 | ・人口減少・少子高齢化が進み、当事業区域も人口減少が続いている。 ・慢性的な交通渋滞を緩和するため、地元自治会より早期完成が望まれている。 | 【マイナス要因】 ・工期の延長(用地解決の遅延) ・事業費の増(残土処分場の変更、資材・労務価格の高騰) | 2.2 | 1.4 | ・残土の有効活用などを検討し可能な限りコスト削減を図る。 ・代替案と比較したうえで最適なと判断した。 | H30 | 継続 | |
| | | | | | | H18 | R11 | | | | | | | | | | 65 | | | | | |
| 河川9 | 総合流域防災事業 | 日宇川 | 県 | 佐世保市 | 改修延長L=2,002m 築堤、河床掘削、護岸整備等 | S43 | R5 | 25 | 23.5 | 52.2 | 99(96) | 0.7 | 20.8 | ・長崎県総合計画チェンジ&チャレンジ2025基本戦略3-3安全安心で快適な地域を創る(3)災害に強く、命を守る強靱な地域づくりに位置付けられている。 | ・変化なし | ・佐世保市市及び地元住民より早期完成が望まれている。 | 4.0 | 3.2 | 【プラス要因】 ・治水経済調査マニュアル、資産評価単価及びデフレターの改定 【マイナス要因】 ・事業費増、工期延長 | ・これまで可能な限りコスト削減を図っており、事業効率化に大きく寄与する新たなコスト削減は見込めず、また代替案の可能性は無い。 | H30 | 継続 |
| | | | | | | S43 | R15 | | | | | | | | | | 45 | | | | | |